

1 研究主題の意味

(1) 基礎的・基本的な内容の定着とは

基礎的・基本的な内容とは学習指導要領解説に示されている関心・意欲・態度、思考・判断、技能の学習内容を各学年の単元目標及び評価規準、基本的な学習過程として具体化した「北九州スタンダードカリキュラム」に示されている内容を踏まえ、本校の児童の実態に応じて修正したものである。そして、その定着とは、「できる」(技能)・「かかわる」(態度)・「わかる」(思考・判断)」というように、学習内容が身に付くということである。本研究では、器械運動領域における技能の基礎的・基本的な内容を「目指す動き」として設定している。(別添資料)

(2) 運動の楽しさとは

以下の4つの楽しさを本研究における運動の楽しさとして定義する。

- ①動く楽しさ：進んで体を動かし、望ましい運動量に達したときに得られる爽快感。
- ②集う楽しさ：仲間と学び合うことの楽しさ。
- ③わかる楽しさ：学習を通して運動に関する新しい知識を発見したときの喜びや驚き。
- ④伸びる楽しさ：自分が進歩しつつあり、学習ごとに新しい自分が出現する楽しさ。

(3) できる喜びを味わうとは

できる喜びを味わうとは、動きが調子よくできたり、繰り返し安定してできたり、より大きな動きができていたりすることで、運動の楽しさや達成感、成就感を味わっている姿のことである。

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領の趣旨及び本市の課題から

学習指導要領解説体育編では、指導内容と運動の系統性を明確にしたうえで、指導内容の確実な定着が求められている。また、本市においては全国体力・運動能力調査の結果、多くの項目で全国平均を下回っていることや運動実施頻度(週に3日以上運動する)が全国と比較すると少ない状況であることから、体育科の授業改善や運動習慣の定着、体力の向上が求められている。

基礎的・基本的な内容の定着を図る授業づくりを推進し、「できる」「かかわる」「わかる」ことを積み重ねながら、運動の楽しさやできる喜びを味わわせる。そうして、体育科の学習を通して運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、体力の向上を図りながら、併せて情緒面や知的な発達を促し、集団での活動などを通じてコミュニケーション能力を育成することや論理的思考力を育んだりすることができるようにするなど、心と体の健全な成長を促していくことが求められている。

(2) 本校の教育目標及び、児童の実態から

本校の学校教育目標は、「地域の特性を基に、知・徳・体・食の調和のとれた心身ともに健康な児童の育成」である。この学校教育目標の達成に向けて、①自ら学び考える子ども(知) ②心身ともに健康な子ども(体・食) ③人を大切にし、地域を大切にする子ども(徳) ④地域の文化を受け継ぐ子ども(徳)の具現化を目指している。本研究の推進にあたっては、学校教育目標と目指す児童像の具現化につながるような体育科学習の充実を図ることが必要である。

本校の児童は体育科学習に対しての好感度は高く、自分の動きを高めようとすることや友達のよさを認めたり助言したりすることに対し、とても意欲的である。器械運動領域の学習についても意欲的な児童がほとんどであるが、これまでの学習における成功体験が少ないことによって苦手意識や恐怖心をもっている児童もいる。「運動に対する二極化」と言われて久しいが、本校でも日頃から運動に

親しむ児童は、学習の中での成功体験が多く、そうでない児童は学習の中での成功体験が少ないという傾向が表れている。日頃から運動に親しむ児童を育み、体力の向上を図る上でも、基礎的・基本的な内容の定着を図る授業づくりを推進することは非常に重要であると考え、本研究主題を設定した。

3 研究仮説

器械・器具を使つての運動遊び（低学年）及び器械運動（中学年、高学年）において、目指す動きを明確に示し、互いに学び合いながら課題解決を図る学習を展開する。その中で、毎時間の評価を生かしながら個に応じた指導を計画的に行えば、児童は基礎的・基本的な内容を身に付け、運動の楽しさやできる喜びを味わうことができるであろう。

4 仮説実証のための具体的着眼

(1) 学び合いを中心に据えた課題解決的な学習展開【着眼1】

北九州スタンダードカリキュラムを児童の実態に応じて修正しながら、学び合いを中心に据えた課題解決的な学習を展開する。

① 目指す動きの明確化

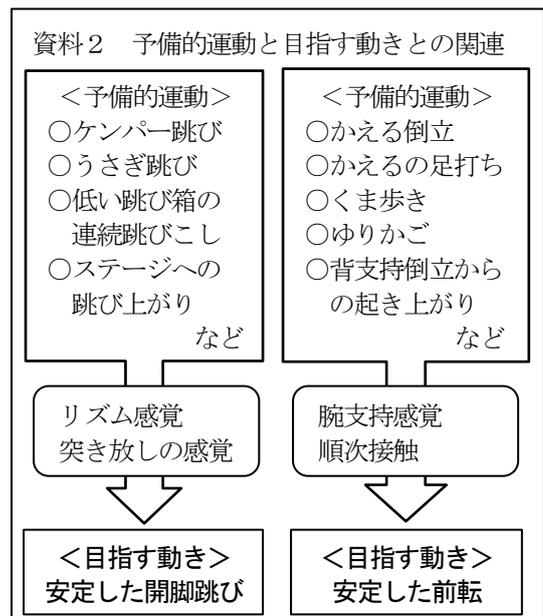
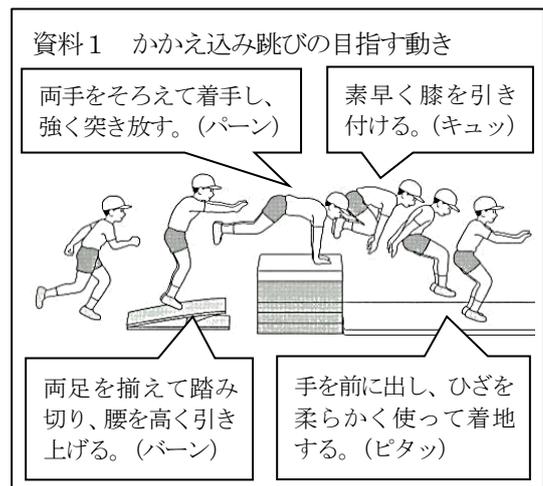
一連の動きと局面ごとのポイントを身に付けるべき「目指す動き」として設定する。児童には絵図や教師の示範、視聴覚機器などを活用して、具体的に提示することで共有化を図る。（資料1）さらに、力の入れ具合や音などを表すリズム言葉を用いることで、目指す動きのイメージをもつことができるようにする。リズム言葉については、例示したものだけでなく、学習中の児童の発言などを使って言語化することで、児童の感覚を大切にす。

② 予備的運動の実施

毎時間の導入において、目指す動きにつながる予備的運動を継続的に行う。類似の動きやすでに身に付けている易しい技で構成し、腕支持感覚や逆さ感覚など基礎的な運動感覚を無理なく育むことができるようにする。（資料2）運動を正しく行うことで効果が表れるため、単元のはじめに動きの説明や示範をするとともに、学習中は、正しい動きができていない児童に対して個別指導を行う。

③ 望ましい学び合いの姿の設定と学習展開

児童相互の学び合いを生み出すために、まず、各学年の児童の発達段階に応じた望ましい学び合いの姿を設定する。そして、その姿が学習中に見られた場合は積極的に称賛して価値付けることで学び合いを活性化させるとともに、学級全体に広がることをねらう。（資料3）



資料3 児童の発達段階に応じた望ましい学び合いの姿

学年	望ましい学び合いの姿	前学年との違い
----	------------	---------

第6学年	自他のよさや課題に気付き、示範・助言・補助をする姿。	互いに教え合うこと。
第5学年	自他のよさや課題に気付き、助言をする姿。友達の動きや助言を参考にして運動に取り組む姿。	友達の課題に気付くこと。 友達の動きや助言を参考にしてやってみること。
第4学年	自分の課題に気付き、よいところを伝え合ったり、助言をしたりしながら学習に取り組む姿。	自分の課題に気付くこと。 助言すること。
第3学年	友達のよさに気付き、よいところを伝え合いながら学習に取り組む姿。	よいところを伝えるという言語活動。
第2学年	うまくできたことをほめ合ったり、友達の動きのまねをしたりしながら学習に取り組む姿。	ほめ合うという言語活動。
第1学年	友達の動きをよく見たり、友達の動きのまねをしたりしながら学習に取り組む姿。	

また、学習活動におけるねらいを明確にし、学び合いを通して「わかる」と「できる」をつなぎ、「わかってできる」ようにするための課題解決的な学習を展開する。(資料4)

資料4 課題解決的な学習展開

学び合い(見合い・伝え合い・教え合い)

学習活動	ねらい
1 学習準備	協力しての場づくり、予備的運動による基礎的な感覚作り
2 めあての確認 わかる	目指す動きを明確に示す。 (絵図、示範、VTR等で動きを見せながら、局面ごとにリズム言葉を用いて動きのイメージをもつことができるようにする。)
3 主運動前半 ためす	今、自分が持っている力で運動に取り組む。運動の際は、必ず互いに動きを見合うようにし、よさや課題を伝え合うことを通して、目指す動きと実際の自分の動きとの違い(課題)や自分の動きのよさに気付くことができるようにする。
動きの見合い 共有する	モデルとなる児童の模範演技を全員で見ることを通して共有化することをねらう。動きを見せる際には、一連の動きを漠然と見せるのではなく、その時間のねらいに沿って視点を明確に示す。
主運動後半 ためす	共有化した動きの真似をしたり、自分の課題に合わせた練習を行ったりして、自分の動きがさらに目指す動きに近づくようにする。運動の際は、互いに動きを見合うようにし、よさや課題を伝え合うことを通して、目指す動きと実際の自分の動きとの違い(課題)や自分の動きのよさに気付くことができるようにする。
学習活動4 まとめ 交流する	技能の伸びを確認したり実感したりすることができるように動きの変容について交流し、次時への意欲を高めることができるようにする。

(2) 個に応じた指導と評価の一体化【着眼2】

① 即時評価と即時指導

単元の評価規準をもとに活動場面において即時評価を行う。児童の氏名と評価項目を載せた個人

データカードを作成し個別にチェックしていく。学習中に目指す動きが見られた場合はすぐに称賛の声かけを行い、動きの意識付けを図る。一方、「C」と評価をした児童には「B」に導くための指導が即時にできるように、予想されるつまずきに対しての手立てを考えておく。

② 支援計画の作成

本時の評価を次時の指導に生かすため、本時終了時点で「C」と評価をした児童を中心に、次時の学習で「B」に導くための手立てを考え、支援計画を作成する。児童のつまずきを予想し、学習中に個に応じた指導が即時行えるようにすることで指導と評価の一体化を図る。(資料5)

資料5

【第4学年1組 跳び箱運動における個人データカード(左)と支援表

4年1組 跳び箱運動 個人データカード (評価 A B C)						4年1組 跳び箱運動 支援表 5/8									
児童	時	時上		時下		備考	5	10	15	20	25	30	35	40	45
		回数	成功	回数	成功										
①	4	4	0	0	0	0									
	3	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	3	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
②	4	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
③	4	4	0	0	0	0									
	3	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	1	4	0	0	0	0									
	2	4	0	0	0	0									
④	4	4	0	0	0	0									
	3	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	3	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
⑤	4	4	0	0	0	0									
	3	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	2	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
⑥	4	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	2	4	0	0	0	0									
	4	4	0	0	0	0									
	1	4	0	0	0	0									

5 研究構想図

